

令和2年度 岐阜県外国人県民会議 概要

日 時：令和2年8月23日（日）13：30～15：15

場 所：岐阜県図書館 研修室 1、2

出席者：外国人県民会議委員 10名（うちオンライン参加6名）
オブザーブ参加

・推薦市4市（岐阜市、大垣市、美濃加茂市※、可児市※）

※はオンライン参加

・（公財）岐阜県国際交流センター 1名

県外国人活躍・共生社会推進課 5名

<主な意見の概要>

○新型コロナウイルス感染症について

1. 情報の収集・発信方法について

- ・ 同国出身者同士のみで交流し生活している実態があるので、なかなか情報が伝わってない面がある。特別定額給付金についても、外国人は対象外だと誤解している人もいた。外国人の所属組織を利用してうまく密着した情報提供ができればよいのではと思う。
- ・ 行政は様々な多言語情報を発信しているが、外国人住民に届いてない感じがする。出産予定の県内在住中国人が、多言語の母子手帳についてインターネットで調べたところ、中国語版母子手帳があるとホームページで掲載していたのは1市のみであったため、居住地の役場からは日本語の母子手帳を貰った。後に居住地でも中国語版母子手帳があることが分かったが、既に日本語版を使用済みであったため取り換えはできなかった。
- ・ 情報提供については、会社、学校、自治会など、所属を利用した情報提供が良いのではないか。
- ・ 情報収集方法は、フェイスブックを利用している。誰かがフェイスブックで流すと広まる。
- ・ 感染者が増加すると、不安になり、帰国したい、仕事をやめたいという声がある。

あるので、コロナの情報については、コロナの好転した情報も提供している。先日愛知県が発表した感染状況の好転について、中国語に翻訳し WeChat（微信）で周知した。

- 春頃は情報がかなり混乱していたが、総務省、県、市が発表した情報から重要な情報を選択している。中国人コミュニティの情報伝達ツールは WeChat（微信）。様々な層がグループにいる。当グループでは、1月頃の中国へのマスク支援から始まり、WeChat（微信）で様々な情報を提供している。
- ブラジルコミュニティは、日本のマスメディアから直接情報を得ることは無い。SNS、ブラジルの政府やマスメディアが発信する情報から得ている。
- 県国際交流センターや美濃加茂市、『FM らら』から得た情報について WhatsApp (SNS アプリの一つ) を活用し、ブラジルコミュニティに伝達している。可児市の情報は残念ながらポルトガル語では発信されていない。
- 学校では大雨警報や新型コロナウイルス感染拡大防止で休校となった場合、保護者に連絡を取るが、日本語がわからない方への情報伝達方法は課題だと思う。インターネット上に情報はたくさん溢れている。県や岐阜県国際交流センターのホームページを紹介したが、警報の場合一番わかりやすいのは Yahoo! の気象情報だった。外国人自身で情報を取りに行くようにしなければいけない。
- （上記発言に関連して）休校情報の伝達などは、県や市町などで学習支援を行う非常勤講師と連携し、翻訳したテンプレートを作成して活用すればよいのではないか。
- 各コミュニティによって、SNS のツールが異なるので、ツールを選択して情報発信をしていくと良い。
- 日本語のニュース、NHK の英語サイトから情報を入手している。日本語ができない方には、多言語でフェイスブックを利用し拡散したりするのがいいと思う。
- フィリピン人は家族単位で行動し、フェイスブックで情報を取得する。紙の

チラシ配布よりも英語のブログを活用し情報伝達するほうが良いのではと思う。

2. 就業への影響について

- 20年近く技能実習生と関わる仕事をしている。今年から仕事量が半分になっている。技能実習生の給与は基本給と残業代で成り立っているが、残業がないので、手取りが少なく生活が苦しいという声がある。技能実習生は職種を自分では変えることは非常に難しい。仕事がなくなったら我慢をするしかなく、また他業種との接触もあまりない。
- 仕事は残業が減少し、出勤数が少なくなっている。
- ルームシェアをしている3人が個々に緊急小口資金貸付を利用しようとしたが、住所が同じだということでその内の1人しか受給できなかった。また、同じ部屋に6人程度が暮らしていて、仕事もなく、室内ではマスクをつけていないので感染が心配なケースもある。国に帰りたいがフライトが無く、帰れない人もいる。新型コロナウイルスの影響がいつまでつづくか不安だ。
- 飲食店等の経営は厳しいと聞くが、国の補助金も活用している。技能実習生は職種にもよるが仕事量が少なくなった。
- 労働組合活動をしている。仕事を続けるようアドバイスをしているが、派遣契約の打ち切りにあわせて失業手当を受給し給付金があればそれでよいという人もいる。失業手当が切れる3か月後の生活が心配だ。
- 垂井町では約30名の方の失業があり関連手続きをしたと親族からきいた。
- 留学生向けの就職支援の仕事をしているが、製造業が採用を減らしている感じがする。
- 工場勤務の労働者からは今後の就業計画がわからないので不安との声をきく。
- 失業者が増えているが、コロナをチャンスと捉え、日本語を勉強し技術を磨くなどするよう相談者にアドバイスしている。例えば日本語やパソコンの研

修を県やハローワークで実施してもらえるといい。

- 外国人は、今は仕事も少なく時間に余裕があるので、スキルアップをすることは良いと思う。どこでスキルアップできるのか、正社員になるにはどんなスキルを磨けばいいのかと聞かれても、紹介先がない。個人間で売買ができるアプリ等を利用して自活能力をあげるための無料教室があってもよいのではないか。
- スキルアップをするにしても日本語能力が必要だ。大人になってから来日した外国人にとっては、正社員になるための日本語を学ぶことはハードルが高い。ポルトガル語やスペイン語で受講できるパソコン教室があるとよい。非正規の仕事から正規の仕事へ移るには、本格的な移民政策がないと厳しい。その点今の若い人たちは日本語能力が高いと感じる。

○その他

- 技能実習生は日本語を学びたいが、新型コロナウイルスの影響で日本語教室自体が中止しており学ぶこともできない。
- 企業は技能実習生等を受け入れるが、経済状況が悪くなると直ぐ国へ帰そうとする。このことは日本のイメージを悪くしている。
- 偏見・差別ではないが、中国人ということで敬遠されることは少なからずあり、嫌な思いをした。
- 中国で先に新型コロナウイルスが感染拡大したこともあり、中国人コミュニティでは皆、感染しないよう気をつけている。
- ブラジルの習慣でハグや握手があるが、今は気をつけている。
- 啓発チラシに「新型コロナ対策実行中」のミナモステッカー例を掲載したままブラジル人コミュニティに配布するのは不安。ステッカー例を悪用されるかもしれない。
- 岐阜県に限らないが、病院の中には言葉が通じない人への診療拒否がある。電話での通訳を提案しても、病院側から拒否される。以前は言葉が通じなく

でも親切に受け付けてくれたが、今は通訳がないなら病院に来るなという感じだ。受付における問診については、翻訳した問診票を作成しており、それを渡すので通訳が無くても大丈夫なのだが、受診時における医師との通訳の問題がある。すべての医療機関で電話通訳を受け入れる体制をとってほしい。

- （上記発言に関連し）県国際交流センターでは医療通訳のスキルアップ研修を行っているが、医療通訳を派遣できる病院は決まっているのか？

⇒（県）県国際交流センターが契約している病院のリストがある。ただし今は、新型コロナウイルスの影響もあり医療通訳派遣を行っていない。相談があれば、在住外国人相談センターの相談員が病院へ繋ぐ。受診時の医師との通訳は行っていない。

- 特別定額給付金について、特定の日本人が申請書記載を手伝うという話が親族のところにあった。それは信用できないと思い私が記載を手伝ったが、外国人を対象とした給付金詐欺もあるのではないか。